



# 向こう三軒両隣 普段の交流が 災害時の減災につながると信じて

徳島市中昭和町1・2丁目自主防災会  
会長 中村正則



## 1 中昭和町1・2丁目自主防災会とは

徳島県庁の南500mに位置する平坦で閑静な住宅街で、その中央に公園があります。南海トラフ大地震では震度7、津波水深2～4mの想定地区で、平成21年4月に203世帯、住民約500名で設立しました。高齢化と共に独居老人も増えてきています。

## 2 発足当初は

毎月のように、様々な関係者をお呼びして、講習や訓練をエネルギーに行いました。市危機管理課でHUG（避難所運営ゲーム）、市消防で救命訓練、県防災センターで南海トラフ巨大地震の解説やDIG（災害図上訓練）、自衛隊に災害時の救助活動、派出所の警察官、消防団、地域の病院や薬局、福祉施設の方から防災時の対応も聞きました。津波避難訓練やダンボールで避難所の生活空間づくりなども行いました。皆さんと作った防災マップは県から優秀賞を受賞しました。防災かわら版も発行しています。

## 3 マンネリ化から気づき

ところが、大勢が集って同じような講習や訓練を続けていると、目に見えて参加者が減ってきました。講師に失礼にならないよう参加者集めに苦労しました。このままでは続かないと落ち込んでいましたが、地域の公園を活かして気楽に楽しく集まれるイベントを通じて啓発活動

ができないかと考え、普段のご近所との交流も大切にすることで、これなら継続が可能だと気づきました。

## 4 地域の公園で交流イベント

地域には様々な分野の方がいますが、その一人で徳島文理大学教授が学生のサークル活動を地域で披露してくれるようになり、春は桜満開の公園で沖縄のエイサー踊り、夏には阿波踊りを見たり一緒に踊ったり、地域の恒例行事として定着しました。また、秋は炊き出し訓練で



桜満開の昭和公園でエイサー踊り見物



皆が楽しむ徳島文理大学の阿波踊り



LEDの手作りの灯りを全所帯前に点灯

試食会、冬は公園と各家前の通りにLEDの手作り灯りを点灯と、地域一体となる活動によって皆の心を一つにするきっかけも生まれました。

## 5 ご近所付き合いに変化

このような活動を続けていて小さな変化が見えてきました。通りでの挨拶、立ち話、頂き物のお裾分け、一人暮らしの方同士と一緒に食事するなど、人の交流が目に見えて活発になり、向こう三軒両隣の関係が根付いてきました。防災かわら版の『向こう三軒両隣のコーナー』で地域の人達の趣味や暮らしぶりを紹介した効果が大きかったです。



高齢者宅での寄り合いが新聞記事に

## 6 地域の防災活動から 見えてきた『近助力』

地域には公園という貴重な空間があり無駄にしたいくないし、地域の喫茶店や仕出し屋、焼き肉屋さん、各種事業所も地域と共にあり、各住宅もご近所の良い寄り合いの場、そして全ての人には様々な知恵や経験があります。この地域の宝を活かすことが地域の防災活動を継続する力『近助力』で、それが減災に繋がるんだと確信できるようになってきました。



地域の人達で防災かわら版を発行

## 7 今後の活動

熊本地震の教訓として、被災後避難所が使えない可能性もあると知り、災害対策本部用に大型テントを購入し、地域の公園で防災キャンプ訓練を実施し、これまで参加の少なかった子供やその親の参加により、自主防災会の若返りと活発化のきっかけになれば幸いです。

